

## 令和 7 年度 第 2 回学校関係者評価委員会

日時：令和 8 年 3 月 27 日(金)19:00~19:50

場所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：学校関係者評価委員 5 名：小林小夜子、有福浩二、大坪 健、吉岡正恒、藤本 努

本校職員 6 名：淡野、韋、福島、牧山、山内、林

記録：林

### 1.出席者紹介(自己紹介)

### 2.校長挨拶（淡野校長）

- ・国家試験結果：理学療法学科で現役 1 名が不合格となったが、作業療法学科は全員合格。  
既卒者についても、理学療法学科で 1 名、作業療法学科で 1 名が合格した。  
県内の専門学校の中ではトップの合格率となった。
- ・備品寄付：同門会より、電子黒板 6 台と各室のプロジェクターとスクリーンが寄贈された。
- ・入学者状況：入学確定者は理学療法学科 28 名、作業療法学科 29 名。  
全校学生数は約 158 名の予想で、損益分岐点とされる 160 名を下回る厳しい状況にある。

### 3. 出席者紹介（自己紹介）

### 4. 前回会議後の報告

司会の韋より、資料に基づき以下の内容を報告。

- ・前回会議報告： 前回の委員会内容をまとめた報告書を資料として配布。
- ・広報誌「POTNurturer Vol.14」の紹介  
カラー刷りの広報誌を配布。  
掲載内容として各クラスの記事、実習に関する報告、卒業生から後輩へのメッセージ、学内行事や専門学校スポーツ大会の様子など。  
新企画：学校から学生へ向けた「臨床実習に関するアドバイス」の記事を掲載。

### 5. 開会（韋）

当委員会は第 6 条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることの確認。

### 6. 委員長選出（韋）

委員長は小林先生で進めさせていただく。

### 7. 審議事項

#### 1) 令和 7 年度 学校自己評価の結果について

山内より、5 段階評価（5：大きく改善 ～ 1：大きく後退）に基づく過去 5 年間の平均と今年度の比較報告がなされた。

#### 【改善が見られた項目】

- ・情報システムによる業務効率化： 3.4 から 3.6 へ向上。
- ・教職員の能力開発・研修： 2.8 から 3.2 へ大きく改善。予算を確保し、東北地方など遠方への研修参加も推進した。
- ・学習成果： 資格取得率の向上と退学率の軽減（昨年度 12 名から今年度 6 名へ減少）に大きな改善が見られた。
- ・防災体制： 消防署立ち会いのもと避難訓練を実施し、高い評価を得たことで数値が向上した。

#### 【課題が残る項目】

- ・人事給与と制度： 2.9 と低迷。自己評価制度が未整備であることや、学生数減少に伴う財務状況が影響している。

- ・財務基盤の安定： 2.7 から 2.5 へ低下。学生募集の苦戦が不安要素となっている。
- ・ボランティア活動： 3.0 から 2.9 へ微減。コロナ禍の影響や、能動的に動く学生が減っている「未経験世代」の課題が指摘された。

#### 【意見交換】

- (小林) 項目 2-4「人事給与に関する制度」が 2 点台と低迷しているが、これは項目 8-1「学校の財務基盤の安定」と関連しているのか。学園全体としての状況を教えてほしい。
- (淡野) 本校では自己評価制度（人事考課）をまだ導入しておらず、それが評価に影響していると考え。また、財務基盤については、学生数の減少に伴い納入金が減り、賞与が以前ほど出せていない現状も反映されている。
- (吉岡) 5 段階評価における数値の捉え方について、3.4 や 3.7 といった「わずかな改善」を学校側としては今後どのように繋げていく方針か。
- (山内) 劇的な変化ではないが、取り組みの結果がわずかでも数値に表れたと考える。これを一過性のものにせず、継続して 3.5、4.0 と段階的に引き上げていくための指標として捉えている。
- (吉岡) 項目 3-12、3-13 の「教員の研修・指導力向上」と、項目 6-3「防災体制」の数値が大きく向上した具体的な要因は何か。
- (韋) 研修については学園から予算を確保し、学会や研修への参加も推進した。防災に関しては、今年度久々に消防署立ち会いのもと避難訓練を実施した際、「非常に素晴らしい」と高い評価をいただいたことが教職員の自信に繋がったと考える。
- (吉岡) 財務に関して、毎年「少し後退」という評価が出るのは、具体的にどのような要因があるのか。
- (淡野) 基本給が下がるわけではないが、賞与の計算方式や学生数の目標未達に対する将来的な不安が教職員の間にあるのは事実である。
- (小林) 就業規則の見直しなどで、基本給と賞与を別物として捉える教育も必要かもしれない。学生数が増えれば還元されるという期待感を持てると良い。
- (藤本) 学生支援について、学内教員の授業は分かりやすいが、非常勤講師の授業が専門的すぎて難解だったり、スライド量が膨大だったりして、学生が苦勞しているという声を聞く。学生のアンケート結果などを講師にフィードバックする体制はあるのか。
- (林) 専門知識の習得は必須であるが、今の学生は教科書を読み解くのが苦手な傾向があるため、毎日 30 分の補習（自由参加）を実施し、非常勤講師の講義内容を噛み砕いて解説するなどのフォローを行っている。非常勤講師の方々へも、小テストのタイミングを調整してもらうなど、学生の声を反映した対応をしている。
- (淡野)：今の学生はいわゆる「未経験世代」で、コロナ禍の影響もあり能動的に動くのが苦手である。ボランティア活動も自主的に参加するのではなく、教員が「目に見えない価値」を伝え、導いていく必要性があると実感している。
- (小林) ボランティア参加時の保険や交通費などの学生負担はどうなっているのか。
- (山内) 依頼元に保険加入を必ず確認し、学生の自己負担がないよう配慮している。アルバイトを優先する学生も多いが、1 人でもきっかけを作って広げていきたいと考えている。

---

## 8. 総評

- (小林) 学生数が限られる厳しい経営状況の中でも、教員の研修や防災など、学生に直接還元される項目に予算と力を注いでいる点を高く評価する。全ての項目を一度に改善するのは難しくても、年度ごとに焦点を絞って目標を達成していくことで、数年後には全体が底上げされるはずなので、諦めずに頑張ってもらいたい。

9. 謝辞（校長）参加者の謝辞が述べられた。来春からは理学療法学科・作業療法学科に1名ずつ新任教員を迎える。厳しい環境ではあるが、学生の可能性を信じて取り組んでいきたい。

10. 閉会（章）

司会より閉会が宣言される。

次回開催についての案内：令和8年3月27日（金）19:00からを予定するが、参加者の都合がつくのであれば、30分早めて開催したい。